



皿焼窯と茶碗窯の2基からなる中野窯跡。高級品の焼成を目的とした窯であったと推定されている。

# 日本遺産 Japan Heritage

## Vol. 12 「日本磁器のふるさと肥前～百花繚乱のやきもの散歩～」 中野窯跡(平戸市)

陶土や陶石、燃料(木々)、水(川)など、窯業を営む条件がそう自然豊かな九州北西部の地「肥前」では、さまざまなやきものが誕生し、それぞれに歴史を紡いできました。

中野焼は、1598年に平戸の松浦家第26代当主 松浦鎮信が朝鮮出兵から戻る際に連れ帰った朝鮮熊川出身の陶工・巨関らに、平戸の中野地区(現在の平戸市山中町)に開いた藩窯「中野窯」で陶器を焼かせたことに始まります。

中野窯は、国内で最も早い時期にトンバイ(耐火レンガ)を使用した窯の一つと言われ、窯跡では、陶器の茶器や壺、甕、さらに当時世界最高峰のやきものと称された中国の景德鎮製の磁器※を強く意識して作られたと考えられる品が数多く出土していることから、陶器から磁器焼成への移行を伝える窯としても貴重であり、県の文化財に指定されています。

洗練されたやきものを生み出した中野窯は、平戸藩が領内の早岐村三川内地区(現在の佐世保市三川内町)に陶工たちを移し、献上品などを焼く御用窯を設置した1650年に役目を終え、その短い歴史を閉じました。

※陶器...陶土と呼ばれる粘土が主な原料。透光性はなく、吸水性が高い。  
磁器...石英、長石などの陶石が主な原料。透光性があり、吸水性は低い。

400年熟成観光地。



### 日本遺産とは

地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの



中野焼の水指(中央)と茶碗/三川内焼のルーツであり、わずか50年ほどで姿を消した“幻のやきもの”中野焼。現存するものは極めて少ない。松浦史料博物館に展示されている。



松浦史料博物館/平戸藩主であった松浦家に伝来する資料を保存・公開している博物館。建物は、1893年に松浦詮の私邸として建てられた「鶴ヶ峯邸」(県指定文化財)。

問合せ 県の県北振興局 商工労政課 ☎0956-24-5287

肥前やきもの圏

検索

